

躍動 *Aggressive!*

進路通信第5号

夏休みはいかがでしたか。「この夏はこれをしたんだ」というものはありましたか。それとも「なんとなく終わってしまった夏休み」でしたか。

3年生で進学希望の人はつい先日、全統記述模試があり一足先に「休み気分脱出」でしたね。もともと受験を控えて「休み気分」などというものはなかったことでしょうけれど。就職希望の人は進路決定が間近ですので、こちらも臨戦態勢のままですね。

2年生の人はどうでしょうか。昨年はコロナ禍でイレギュラーでしたから、この夏にかける思いは強かったでしょうね。何にでもチャレンジできる高2の夏。3学年のうちで一番充実していた、といえる人が多いといいのですが。

1年生の人にとっては初めての「高校の夏」です。手応えはありましたか。漠然とした期待だけで「なんとなく」で終わってませんか。具体的な計画と実行力が必要です。この経験を来年度に生かしてください。

という出だして、8月23日の始業日に発行する予定だった「進路通信第5号」は文章を改めざるを得なくなりました。

コロナ禍が収まりません。むしろ悪化しています。武義高祭も100周年記念の人文字も中止になってしまいました。これがコロナ禍の余波（私たちにってはとても大きな「余波」ですが）であればまだ我慢できる（するしかない）のですが、今後コロナ禍が収まる保証はありません。今は今後が見通せない中で、生活していくしかありません。

一方で高校生にとっては大事な時期でもあります。特に3年生は就職試験が迫っています。推薦入試の意思決定に大学入学共通テストの出願もあります。全校生徒にとってもすぐに前期期末考査があります。部活動の大会やコンクールを控えている人は準備不足の中、あれもこれもやらなくては、という焦りもあるでしょう。「先行き不安」とか「閉塞感」などと言ってられません。登校再開を喜ぶのもつかの間です。

だからよいのです。

すべてに全力でぶちあたってこそ武義高生です。気力も体力も振り絞ったところに充実感が待っているのです。社会に出ればこういう状況の時は必ずあります（コロナとは限りませんが）。今こそ前向きになりましょう。自分を強くするチャンスです。幸いにして日本は平和で、国内に戦乱がない高校生は安心して自分のことを第一に考えることができます。

涼しくなってくると活動への意欲が増します。まずは武義高生らしい生活を取り戻しましょう。

《当面の進路行事（不確定要素を含む）》

9/14（火）3年生大学入学共通テスト出願説明

16（木）就職試験開始

27（月）～30（木）前期期末考査

《雑感》

2024年からお札が変わる。今度の肖像画は1万円札が渋沢栄一、5千円札が津田梅子、千円札が北里柴三郎になる。すでに印刷が始まったというニュースがあった。

過日（7月）、ある大学のパンフレットにこのうちの一人の特集が組んであってそれを見たのだ

が、その翌日には他の大学のパンフレットに別の一人の特集記事があるのを見たのだ。そうなると思うところがあって、少し調べて確認した。

3人とも大学と縁が深い人物だ。渋沢は「日本資本主義の父」と呼ばれ、実業家として名高いが、数多くの大学の設立や支援に尽力し、複数の大学で学長や校長になっている。津田は6歳で渡米して10年あまりアメリカで生活した。2度目は留学生として渡米し、帰国後は日本における女子教育の先駆者として津田塾大学の創始者となった。北里は「日本の細菌学の父」として知られ、ペスト菌を発見し破傷風の治療法を開発するなど感染症医学の発展に貢献した。第1回ノーベル賞の候補にもなっている。北里大学の学祖で、慶応大学医学部の創設者でもある。

お札の肖像になった人物は何人もいるけれど、その中で私は個人的には前5千円札の新渡戸稲造が一番好きだ。彼の功績をみなさん知っているかな。普遍的に世界に誇るべき人物だと私は思う。国際連盟事務次官を当時としては異例の7年間務め、「国連の良心」と言われた。国連を退任するときは、軍国主義化が進みつつあった日本の国民でありながら、国連の全職員が彼を見送ったという。無念の思いであったであろう。退官が近い頃の彼の言葉がとりわけ好きだ。

「世界中より参じた国民の親密な接触によって、やがて感情ではなく理性が、利己ではなく正義が、人類並びに国家の裁定たる日が来るであろうことを、私がここに期待するのは、あまりに大きな望みであろうか。」

大げさかもしれないが、私はこの言葉に涙を禁じ得ない。

そうだ、そうだ。お札の前に500円玉も新調される。こちらはまもなくだ。

おっと、忘れちゃいけない、2千円札はそのまま、とのことだ。2千円札、見たことあるかな。

《おまけ》

就職にまつわる小話を。

サンダーバードに憧れた子供が「国際救助隊に就職したい」と言ったら、親が「でもあそこは同族企業だからねえ」と諭されたそう。

あるやんちゃな生徒が「おまえ、吉本に就職したらどうだ」と教師にからかわれて「でも先生、吉本から求人来てません」と応じたそう。

ビール会社の採用面接で一言もしゃべらない学生に業を煮やした面接官が「何か言いたいことはありますか」と尋ねると「男は黙ってサッポロビール」と答えて合格した、という伝説がある。

ある企業の新入社員研修では、500円渡されて「これを30分で遣ってきてください」と言われて戻ってくると、今度は「では1時間で500円儲けてきてください」と指示されるという。

ここまではお話。自分の就職となると「お話」ではすまない。

「不確実性の時代」といわれたてもう何十年も経つ。今自分が新卒ならどんな仕事を選ぶべきなのか、本当に難しい。基準がないからだ。ただどんな仕事にも意味があって（だから報酬がもらえるのだ）、その仕事のどこに意義を見出すのかはその人次第だ。ちょうど幸せかどうかはその人自身が決めることであるのと同じように。18歳で名実ともに社会人として出発しようとしている諸君が、その意義を感じる日が早く来ることを祈りたい。

東京オリンピック・パラリンピックが終わった。スポーツイベントのあり方そのものを考え直す機会になったことは間違いない。賛成、反対や成功、不成功ではなく、今後につながる議論を期待するとともに、せつかく起爆剤になったのだから、コロナが去ったあとでも「ただ元に戻すだけ」、にはなってほしくないと思う。東京大会は犠牲を払って開催されたのだから。

入試でも小論文や面接でテーマにされることと思う。